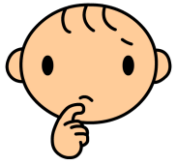
1 学校外の専門機関の活用

よくある質問



- □ 介助の仕方や体の動かし方を知りたい→①②③④⑤⑥
- □ どんなところに気を付けて介助すればいいの？ケガをさせないかと心配です。→①②③④⑤⑥
- □ 体育や自立活動などの授業で子どもにどんな運動をさせればいいの？→①②③
- □ 勉強のときの補助具や工夫を知りたい。→①②③④⑥
- □ リハビリの先生に相談したいけど、何か手続きがいるの？→②③⑥
- □ 困ったことや分からないことは、どこに相談すればいいの？→①②③⑦

ヒント① 基本的な考え方

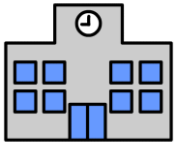
特別支援教育では、さまざまな関係機関とネットワークを作って、子どもの成長に応じた支援を行うことが必要、と示されています。
（文部科学省「特別支援教育パンフレット」より）

担任だけでは、視野の広い教育を行うことはできませんし、肢体不自由教育についての専門性もすぐに高まるものではありません。関係機関と連携することがよりよく、安全・安心な教育につながるということをご理解下さい。

ヒント② 相談することができる機関

（1）特別支援学校（肢体不自由）･･･香川県立高松支援学校

肢体不自由のある子どもの教育を専門に行っています。



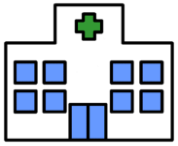
身体援助や学習支援の方法、自立活動の授業、車いすやICT機器などの支援用具、就学や進学、就職のこと、施設設備についてなど幅広く相談することができます。

小学生から高校生まで様々な年齢の子どもが通っているので、肢体不自由のある子どもの成長の様子に詳しいという特長もあります。

（2）病院・リハビリ機関

いろいろな専門のスタッフが治療を行っています。

担任するお子さんに、直接、数年にわたって関わっているので、より専門的で具体的なアドバイスが期待できます。



それぞれが専門にしている内容が異なるので、一人の先生に多岐にわたる相談はできません。
相談内容を整理しておくとよいでしょう。

ヒント③ 病院・リハビリの専門家について

医者：病気の診断・治療の専門家。障害のこと、健康への配慮などを教えてもらえます。

PT：理学療法士。関節のストレッチや姿勢、体の動かし方などの専門家。身体援助の方法や運動課題などのアドバイスがもらえます。

OT：作業療法士。字を書いたり物を扱ったりする日常の動作の専門家。学習時の補助具や支援方法のアドバイスがもらえます。

ST：言語聴覚士。発音指導やコミュニケーション手段、聴覚（聞こえ）の専門家。発達に応じた学習課題やコミュニケーション指導のヒントがもらえます。

ORT：視能訓練士。見えの専門家。視力や眼球運動の実態から、教材の字の大きさや色使いなど、必要な手立てのアドバイスをもらえます。

ヒント④　相談・見学の申し入れについて

（１）特別支援学校（肢体不自由）

電話で「教育相談を受けたい」とお伝え下さればOKです。

連絡先はそれぞれの学校のホームページにのっています。

電話やメール相談もできますが、やりとりにズレが生じることがありますので、基本的には特別支援学校に出向いて相談することをお勧めします。

高松支援学校「からだと学びの相談センター」

このワードで検索するか、右のQRコードを読み込んでください。

（２）病院・リハビリ機関

保護者を通じて、相談や見学を申し入れます。

保護者の了解なしに情報提供はしてもらえません。保護者の了解を得た上で、直接、連絡を取る方法もあります。

ヒント⑤　相談のときに用意するとよいもの

～ビデオや写真、学習の様子が分かる資料のご用意を～

「トイレの介助」「歩行の援助」「体育での運動」など相談内容が決まっているなら、その様子のビデオや写真を。

病院・リハビリ機関

記録にはメモだけではなく、デジタルカメラの持参をお勧めします。見学したことを後で振り返りやすくなります。

撮影の前には、必ず、相手の先生、本人・保護者に了解を得た上で、他の利用者の方が映り込まないように配慮をしてください。

リハビリの時間は限られていますので、相談内容をあらかじめ整理しておくことも大切です。

ヒント⑥　教師がリハビリを行ってよいのですか？

学校は治療を行う機関ではありませんし、リハビリは医者の指示の下、専門家が行っているものです。

見学した内容をそのまま授業で行うことは適切ではありません。アドバイスを学校生活の場面に合わせて取り入れたり、教育的な工夫を加えたりして行うようにします。

相談や見学の時には、リハビリの様子を見るだけではなく、「学校の○○の時にはどう行えばよいですか？」と学校場面での応用の仕方を聞いておくとよい、と言えます。

ヒント⑦　相談や見学をした後にすること

アドバイスを受けてどんな風に取り入れたかなどの事後の報告をするとなおよいと思います。書面でも電話でも構いません。１～2か月後でよいと思います。

アドバイスした担当者も「あのアドバイスはどうだったのかな？」と気にかけて下さっています。つながりを続けておくと、相談もしやすくなります。また先方から新しいアドバイスをもらえるかもしれません。

参考になる本や資料

（１）障害の重い子どもの指導Ｑ＆Ａ
（ジアース教育新社）

（２）国立特別支援教育総合研究所ホームページ

この資料に関するお問い合わせは・・・

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」（０８７）８６５－４５００